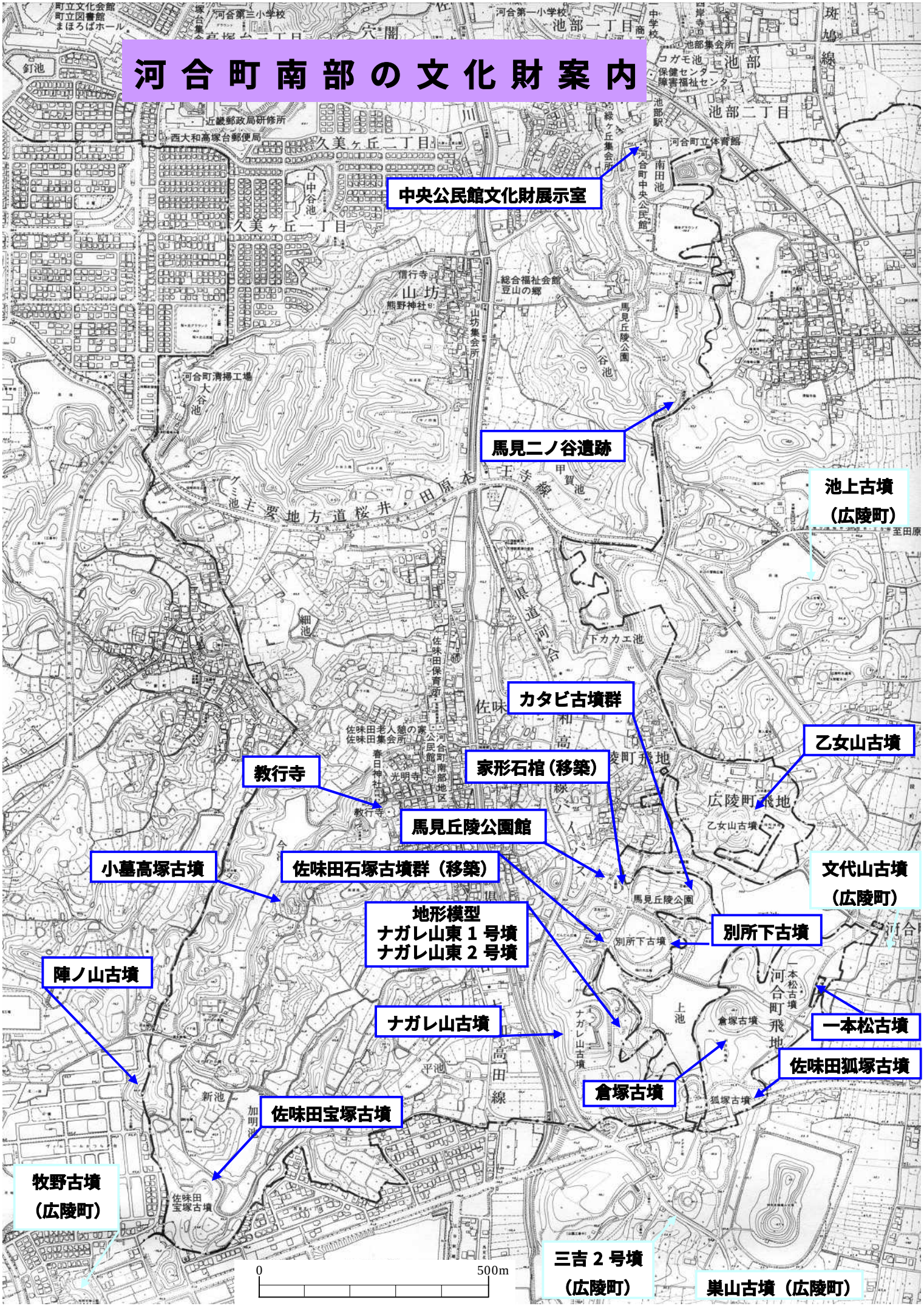
河合町南部の文化財案内



馬見二ノ谷遺跡（うまみにのたにいせき）

所在地：山坊字二ノ谷
種　別：生産遺跡（石器製作所）
時　代：旧石器時代
規　模：東西約 120m×南北約 100m

馬見二ノ谷遺跡は、2002 年にあらたに発見された後期旧石器時代の遺跡です。2002・2003 年に行われた発掘調査では、２ヵ所の谷に周囲から流れ込んだ土砂から、およそ 6,500 点にのぼる石器類が出土しています。谷に接する尾根上の平坦部に石器作りの場所があったことはほぼ間違いないと考えられます。

石器のほとんどは、二上山周辺でとれるサヌカイトを素材として作られています。ナイフ形石器が約 130 点出土していて、大きさ、形態ともさまざまなものを含んでいることが特徴です。また、周縁加工尖頭器と呼んでいる石器が 18 点あって、これらはこの遺跡ではじめて見つかった種類のものです。遺跡の時期をはっきりと示す証拠は少ないが、旧石器時代も終わりに近い約 15,000～16,000 年前の可能性が考えられます。（馬見二ノ谷遺跡説明板より）

馬見二ノ谷遺跡説明板

乙女山古墳（おとめやまこふん）　(国指定史跡) 昭和 31 年 11 月 7 日指定

所在地：河合町大字佐味田字乙女山・赤坂・下池、広陵町大字寺戸字乙女
種　別：古墳・帆立貝形古墳
時　代：古墳時代中期（５世紀前葉）
規　模：墳丘全長約 130m、後円部直径約 103m、後円部高約 14.7m、
前方部幅約 52m、前方部長約 30m、前方部高約 3.5m、
周濠幅約 15m（前方部南側）・約 30m（西側くびれ部）、
外堤上面幅約 20m

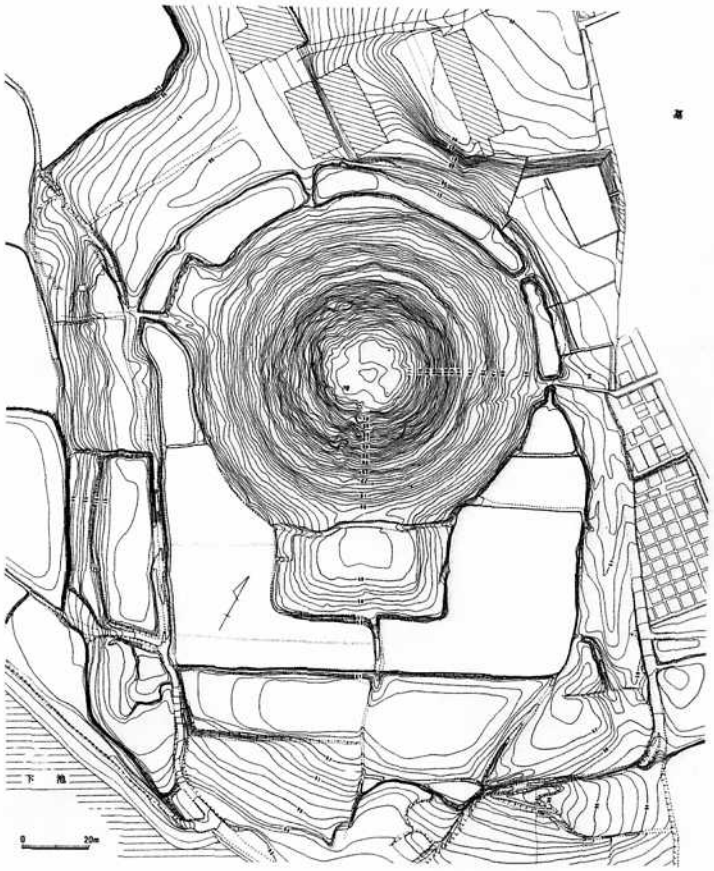
大きな後円部に比べて前方部が極端に低平な帆立貝形（帆立貝式）古墳としては男狭穂塚古墳（宮崎県）についで、全国第２位の古墳。

後円部南西側に長約 11m、幅約 23m の造り出しが付設され、家形埴輪や楕円筒埴輪が配置されていました。また、円筒埴輪のひとつには土師器小型丸底壺等が入れられており、造り出しが祭祀の場であったと考えられます。

墳丘の周囲には周濠が巡り、谷側にあたる東と南側には外堤が巡っています。

後円部墳頂の埋葬施設は、かつて水銀朱や粘土の塊が出土したと伝えられており、粘土槨であったと思われます。また、滑石製の勾玉・臼玉の他、刀子形・砥石形・鎌形・紡錘車形の滑石製模造品の出土が知られています。

1997 年の発掘調査により円筒埴輪、朝顔形埴輪、壺形埴輪、家形埴輪、蓋形埴輪、楕円筒埴輪、土師器、須恵器、土製品が出土しています。その他に草摺形埴輪が知られています。

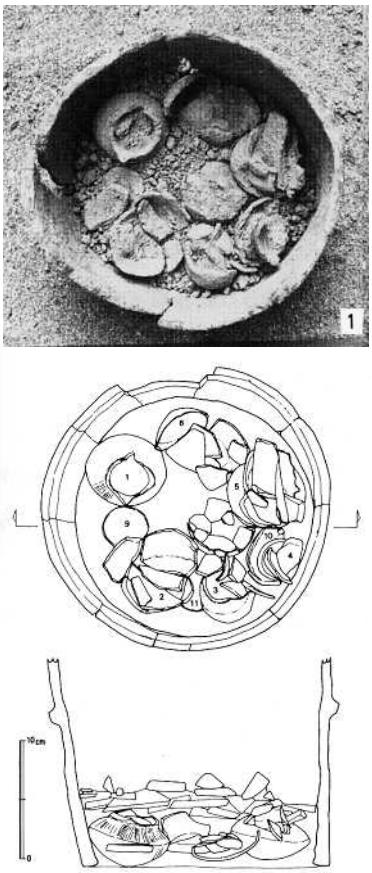


乙女山古墳測量図

乙女山古墳航空写真（南西から・平成8年3月撮影）

蓋（きぬがさ）形埴輪

壺形埴輪



造り出し部円筒埴輪内の
土師器出土状況

倉塚古墳（くらつかこふん）

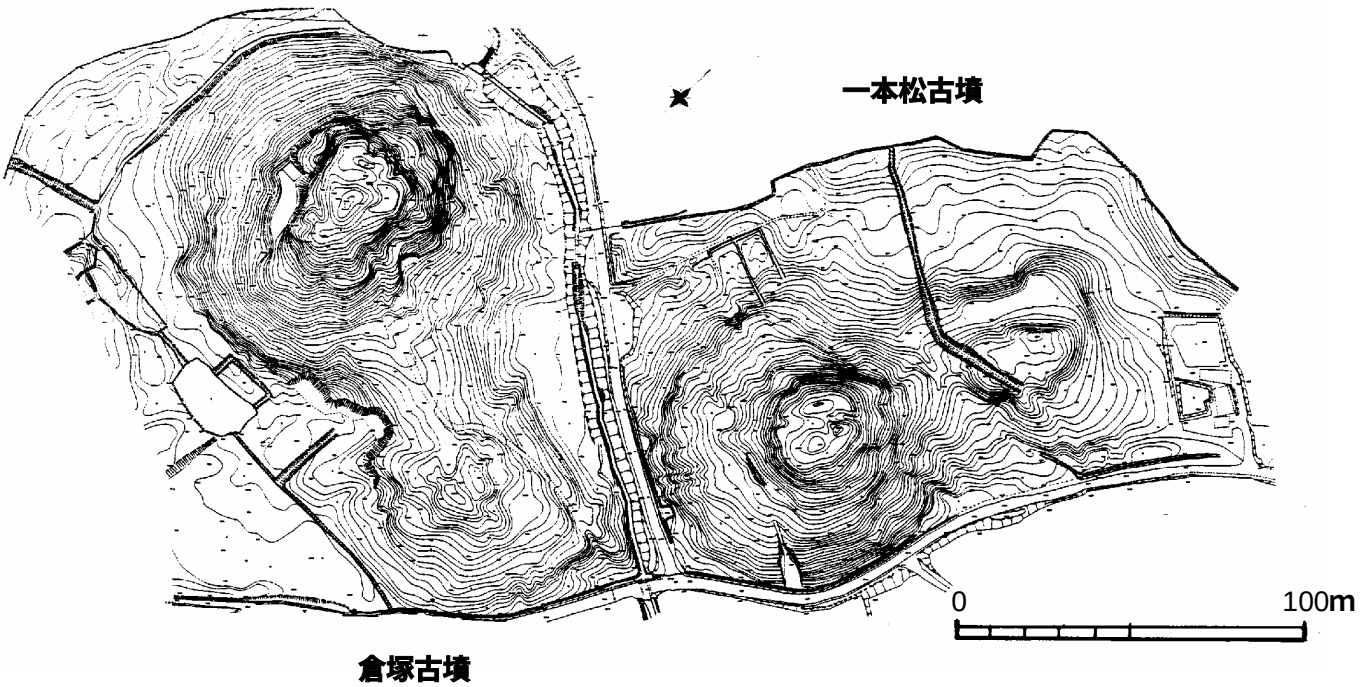
所在地：佐味田字巣山
種　別：古墳・前方後円墳
時　代：古墳時代中期（５世紀前葉）
規　模：墳丘全長約 180m、後円部直径約 106m、後円部高約 12m、
　　前方部幅約 70m、前方部高約 6.1m、周濠？幅約 10m

倉塚古墳は全長 180㎜の前方後円墳で、前方部を東に向けています。後円部南西側に濠状の地形や堤状の地形が残っていますが、上池により抉られ詳細は不明です。

周辺の調査により埴輪の破片が出土しており、５世紀前半の築造と見られます。

1951 年に倉塚古墳の北東側円筒埴輪列中からから円筒棺（倉塚 1 号円筒棺）が出土し、棺内に直刀が副葬されていました。

また、南西 100㎜の地点からも円筒棺（倉塚 2 号円筒棺）が出土しています。



倉塚古墳･一本松古墳測量図

一本松古墳･倉塚古墳遠景（北から･乙女山古墳外堤から）

一本松古墳（いっぽんまつこふん）

所在地：佐味田字巣山・一本松・下池
種　別：古墳・前方後円墳
時　代：古墳時代前期末～中期初頭（４世紀後葉～５世紀初頭）
規　模：墳丘全長約 130m、後円部直径約 80m、後円部高約 10m、
　　前方部幅約 80m、前方部高約 5m、外堤上面幅約 7.5m

倉塚古墳の北側にある全長 130m、後円部直径 80m、前方部幅 80m の前方後円墳で前方部を北に向けています。後円部と倉塚古墳の前方部が接するような位置関係にあります。墳丘の調査は実施されていないので詳細は不明ですが、2006 年に外堤部分の調査が行われ、埴輪棺や陪墳が確認され、倉塚古墳より古い４世紀後半～５世紀初頭の築造と考えられるようになりました。また、周濠内から奈良時代の土器が多量に出土し、周濠は奈良時代に埋められたものであることがわかりました。

一本松2号墳（いっぽんまつ2ごうふん）

所在地：佐味田字倉塚
種　別：古墳・方墳
時　代：古墳時代前期末～中期初頭（４世紀後葉～５世紀初頭）
規　模：一辺約 12～14、周溝幅約 4.5m

一本松古墳の外堤に接した古墳で、一本松古墳と同時に計画的に築造されています。墳丘は盛土によって造られ、現状では１m 程度の高さが残るのみで埋葬施設は失われているようです。南西周溝底で円筒館墓、南西斜面部で埴輪棺墓が検出されています。墳丘には葺石はありません。

カタビ古墳群

所在地：佐味田字カタビ
種　別：古墳
時　代：
規　模：

３号墳　直径 24m の円墳。周溝。
朝顔形埴輪が出土。
５世紀前半以前。

１号墳　東西 20.5m、南北 22.5m の方墳。周溝。
円筒埴輪、朝顔形埴輪、蓋形埴輪、家形埴輪、鎌形滑石製模造品が出土。
５世紀中頃。

２号墳　直径 20m の円墳。墳丘背面に周溝。木棺直葬。
７世紀初頭。

４号墳　墳丘は不明（無墳丘の可能性あり。）木棺２基。
土師器・須恵器。
７世紀前半。

カタビ古墳群遠景（南から）

別所下古墳（べっしょしたこふん）

所在地：佐味田字別所下
種　別：古墳・円墳または帆立貝形古墳
時　代：古墳時代前期（４世紀後葉）
規　模：直径約 60m または全長約 60m

全長約 60m の帆立貝形古墳または直径 60m の円墳。墳丘の第１段目には円筒埴輪・鰭付円筒埴輪・朝顔形埴輪が密に立て並べられていました。墳丘の周囲には周溝と外堤が巡るようですが、部分的な調査のため詳細は不明です。

４世紀後半の築造で、馬見丘陵では新山古墳についで古い古墳であり、いわゆる「中央群」では最古の古墳です。

別所下古墳遠景（ナガレ山古墳後円部墳頂から）

別所下2号墳（べっしょした2ごうふん）

所在地：佐味田字別所下
種　別：古墳・円墳
時　代：古墳時代中期（５世紀前葉）
規　模：南北 15m、東西 16.5m

別所下古墳の東側にある古墳で、周溝が巡ります。葺石は施されていなかったようですが、埴輪は巡らされていたようです。

円筒埴輪、家形埴輪の破片が出土しています。

ナガレ山北5号墳

所在地：佐味田字別所下
種　別：古墳・円墳
時　代：古墳時代中期（５世紀前葉）
規　模：直径約 10m

馬見丘陵内の工事に伴って確認された古墳で、わずかに残っていた周溝の痕跡から直径 10m 程度の円墳と考えられます。葺石は施されていなかったようですが、埴輪は巡らされていたようです。

ナガレ山北3号墳

所在地：佐味田字別所下
種　別：古墳・円墳
時　代：古墳時代前期（４世紀後葉）
規　模：直径約 48m

ナガレ山古墳の北西側に延びる尾根の西側斜面部に築かれた古墳。直径約 48m の円墳で、北側の墳丘裾部から鰭付円筒埴輪と朝顔形埴輪が採集されています。出土の状況から２本の鰭付円筒埴輪を合せ口にし、開口部分を朝顔形埴輪で塞いで棺としたものと考えられます。

これらの埴輪は４世紀後半のものと思われますが、ナガレ山北３号墳の築造年代を示すものかどうか確定的なことは言えません。

朝顔形埴輪

鰭付円筒埴輪

ナガレ山東1号墳

所在地：佐味田字別所下
種　別：古墳・方墳
時　代：古墳時代中期（５世紀前葉）
規　模：一辺 8m 以上

ナガレ山古墳の東側にある一辺 8m 以上の方墳。周溝の一部が確認されました。葺石は施されていないようです。

出土した埴輪からナガレ山古墳とほぼ同時期の築造と考えられます。ナガレ山古墳の東側くびれ部に設けられた通路遺構の先端は破壊により不明であるが、本来はこの古墳の付近まで延びていたものとも考えられ、当古墳はナガレ山古墳と計画的に築造されていると考えることもできるでしょう。

ナガレ山東2号墳

所在地：佐味田字別所下
種　別：古墳・円墳
時　代：古墳時代後期（６世紀前半）
規　模：直径約 22m

ナガレ山東１号墳のすぐ東側に位置する直径 22mの円墳。

埴輪・須恵器片が出土しています。

佐味田石塚1号墳

所在地：佐味田字別所下
種　別：古墳
時　代：古墳時代終末期（７世紀前半）
規　模：

もとは馬見丘陵公園中央エリア入り口の西側にあった古墳で、工事に伴い発見され、河合町中央公民館横に移築された後、馬見丘陵公園内に再移築されました。石室は竪穴式の小石室で、石室の床面には瓦が敷き詰められていました。７世紀前半の築造。

佐味田石塚2号墳

所在地：佐味田字別所下
種　別：古墳
時　代：古墳時代後期（６世紀後半）
規　模：

１号墳とともに公園西側の工事に伴い発見され、公園内に移築されました。１号墳と同様の竪穴式の小石室ですが、発見時にはすでに石室の半分が失われ、現在見るような屋外の竈ような形状になっていました。６世紀後半の築造。

佐味田石塚1号墳石室

佐味田石塚2号墳石室

坊塚古墳

所在地：佐味田字東端
種　別：古墳・円墳
時　代：古墳時代中期（５世紀中頃）
規　模：直径約 60m

直径 60m の大型円墳。1974 年の発掘調査により葺石や墳丘裾の円筒埴輪列・排水溝が検出されています。墳丘は 2 段に築かれ、上段には葺石はなかったようです。埋葬施設は失われていましたが、木棺直葬であったと思われます。

ガラス小玉・鉄片・円筒埴輪・家形埴輪・蓋形埴輪・短甲形埴輪・草摺形埴輪が出土しており、５世紀中頃の築造と考えられます。

調査後、工事により消滅しました。

ナガレ山古墳　(国指定史跡) 昭和 51 年 12 月 27 日指定

所在地：佐味田字別所下・ナガレ
種　別：古墳・前方後円墳
時　代：古墳時代中期（５世紀初頭）
規　模：墳丘全長 105m、後円部直径 64m、後円部高 8.5m、
　　前方部幅 70m、前方部高 6.2m

かつて「お太子山」と呼ばれていました。前方部を南に向けた前方後円墳です。墳丘は２段築成ですが、後円部北側に低い段があり、前方部南側も尾根を切り通しています。この墳丘の形状に合わせて造成した地形の範囲は南北約 140m、東西約 80m に及びます。

昭和 50 年から 51 年にかけて一部が破壊されました。昭和 63 年度より整備事業を行い、東側は古墳築造当時の状況を復元し、西側は築造から 1600 年後の現在の小山のようになった状況で整備しました。平成 9 年 5 月から一般公開されています。

1975 年度に保存のための緊急発掘が実施され、1988 年度からは整備事業に伴う発掘調査が実施されました。1988 年度の調査では東側くびれ部で、埴輪で区画された通路が検出されました。1989 年度の調査では後円部北西側の尾根を区切る埴輪列が確認されています。1990 年度から 1992 年度にかけて土砂採取により崖状になった墳丘の土層観察及び後円部の盗掘により西側くびれ部に廃棄された土の篩かけを行い、多量の滑石製玉類他が出土しました。1993 年度には整備工事の途中に前方部墳頂で未盗掘の埋葬施設が確認され、調査を行いました。埋葬施設は粘土槨です。

発掘調査により円筒埴輪、形象埴輪（朝顔・壺・家・囲・盾・蓋・楕円筒・靫・鳥形等）、玉類（勾玉・管玉・臼玉・棗玉）、石製模造品（刀子・斧・鉇・紡錘車形）、鉄製品（刀・剣・鏃・刀形・剣形・鋤先形・鎌形）土製品、土師器、須恵器、水銀朱など多量の遺物が出土しています。

整備後は小中学校等の教科学習の教材として、あるいは修学旅行に組み込まれるなど、多くの見学者が訪れています。

ナガレ山古墳航空写真（北から）

円筒埴輪列出土状況

東側くびれ部発掘調査状況（東から）

整備状況（南東から）

東側くびれ部整備状況（東から）

円筒埴輪・朝顔形埴輪・盾形埴輪

形象埴輪

鉄製品

土製品

勾玉・管玉・臼玉・棗玉

石製品

佐味田狐塚古墳（さみたきつねづかこふん）

所在地：佐味田字巣山
種　別：古墳・帆立貝形古墳
時　代：古墳時代前期（４世紀末）？
規　模：墳丘全長約 78m、後円部直径約 54～56m、後円部高約 8m、
前方部幅約 31m、前方部高約３m

前方部を南に向けた帆立貝形古墳です。巣山古墳の北西隅に隣接する位置に造られています。

1974～1976 年に道路工事に伴う調査が実施され、埋葬施設が確認されています。上部はすでに流失しており、副葬品などはほとんど確認されていません。

1999～2002 年に公園整備工事に伴う発掘調査が実施されました。巣山古墳との間の地形の乱れは後世の攪乱による改変の可能性が高くなりました。巣山古墳との位置関係から巣山古墳に先行する年代が考えられてきましたが、出土遺物も少なく決め手に欠けます。５世紀以降の古墳である可能性もあります。

西側で複数の主体部を有する円墳の狐塚２号墳が検出され、勾玉等が出土しています。

小墓高塚古墳（おぼかたかつかこふん）

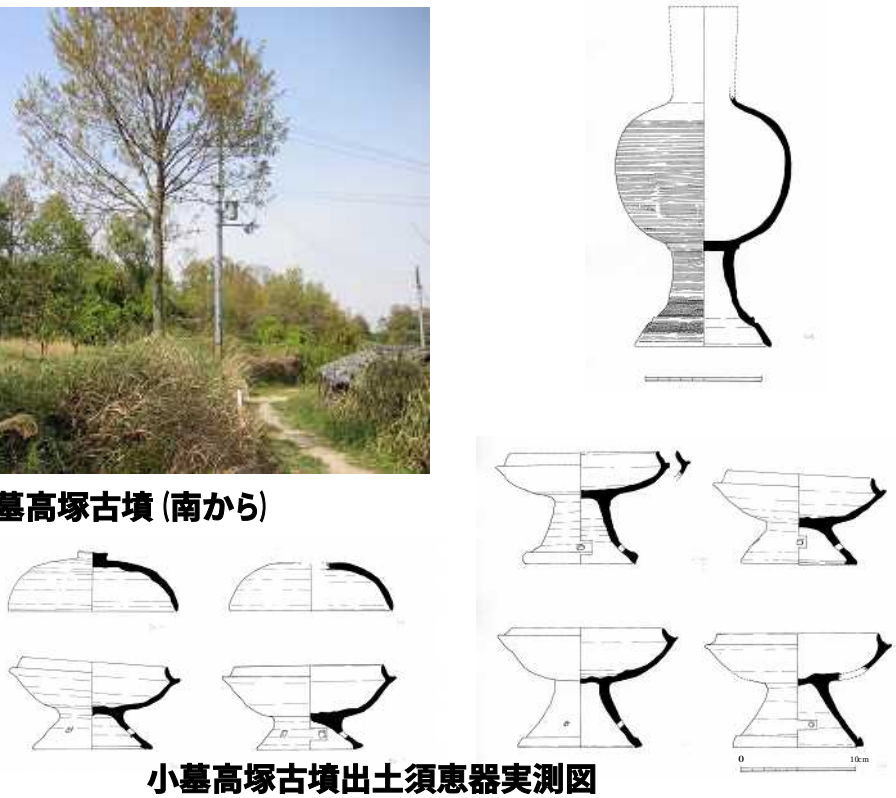
所在地：佐味田字小墓
種　別：古墳・円墳？
時　代：古墳時代後期（６世紀後半）
規　模：不明

昭和 21 年 12 月 23 日、佐味田集落の西、今池の東側の丘陵尾根上で、開墾に伴って組合せ家形石棺が出土しました。石棺の写真や図面が残っていませんが、當麻（現葛城市）の茶山古墳出土の石棺と構造や埋葬状況がよく似ていると報告されています。

調査時にはすでに古墳の封土は除去され石棺が露出する状況であったため、墳丘の規模・形状は不明です。石棺の外側は約 7.6㎝ の厚みの粘土で固めているのみで、石室のような施設は無かったようです。

石棺は東西方向に置かれ、石棺の北側に西寄りに須恵器高坏 11 個が 3 列に並んで置かれていました。また、石棺の東側で須恵器台付長頸壺と提瓶が出土しています。さらに東側で土師器高坏が出土しています。棺内東寄りで玻璃玉３、小玉 1 点が出土しています。その他、調査前に直刀断片と馬具類が取り出されていました。出土した馬具は鏡板２、銜２、鉸具１、雲珠１、辻金具５の計 11 点で、河合町内では唯一の出土例です。

小墓高塚古墳（南から）



小墓高塚古墳出土須恵器実測図

佐味田宝塚古墳（さみたたからづかこふん）　(国指定史跡) 昭和 62 年 5 月 12 日指定

所在地：佐味田字貝吹山・賀明
種　別：古墳・前方後円墳
時　代：古墳時代前期（４世紀後半～末）
規　模：墳丘全長 111.5m、後円部直径 60m、後円部高約 8m、
　　前方部幅 45m、前方部高 8m

佐味田宝塚古墳は馬見丘陵中央部の尾根上に作られています。河合町の西南端にあたり、すぐ西側は上牧町、南側は広陵町と接しています。

佐味田宝塚古墳は前方部を北東に向ける前方後円墳で、後円部に較べて前方部が狭長で古式の特徴を残しています。尾根を利用して築造されており、周囲に濠は巡っていません。

昭和 60 年（1985）の発掘調査により後円部の墳丘裾部を巡る鰭付円筒埴輪列や斜面部の葺石が確認されています。また、家・蓋・盾・靫・短甲・草摺等の形象埴輪が出土しています。

明治 14 年（1881）に後円部の墳頂が発掘され、銅鏡 36 面（現存 24 面＋複数面分の破片）を含む約 140 点の遺物が出土しています。中でも「家屋文鏡」と呼ばれる鏡は、鏡背に４棟の建物の図像があしらわれており、古墳時代の建築を具体的に示す資料として注目されています。また、「卑弥呼の鏡」ともいわれる三角縁神獣鏡も 11 面以上出土しています。

後円部の埋葬施設は周囲に礫を巡らせた粘土槨の可能性が考えられます。

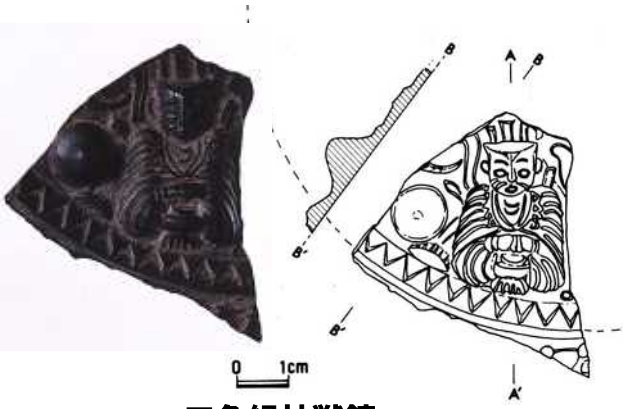
築造年代は、かつては鏡の評価が先行し、古く考えられていましたが、昭和 60 年度の発掘調査により多くの埴輪が出土し、４世紀の後半から末葉にかけての時期と考えられています。

後円部の南側には円墳の貝吹山２号墳があり、北側にも 7 面の鏡が出土した古墳（貝吹山古墳）があったとされますが、現状では明瞭な墳丘は見られなくなっています。

墳丘全景 (南西から･発掘調査時)

墳丘全景 (南から･現況)

車輪石



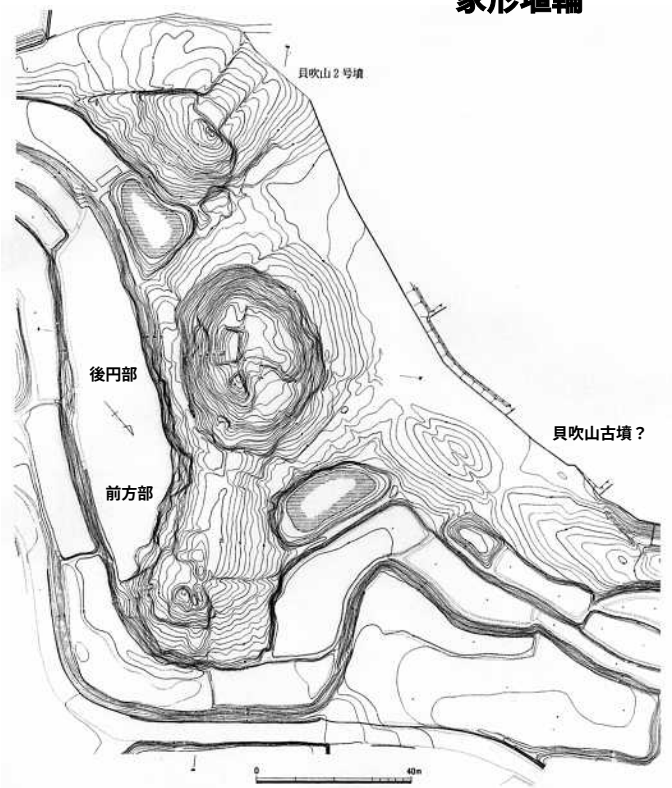
三角縁神獣鏡

盾形埴輪

蓋形埴輪

家形埴輪

靫形埴輪



佐味田宝塚古墳測量図

短甲形埴輪

草摺形埴輪